

- P2 経営支援レポート
元気印 ズームアップ
- P4 臨時総会・第66回通常総会
- P6 青年部・女性部だより
- P7 福島ふくらみプロジェクト
- P8 掲示板

News Clip

あ ぐ ひと しょう こう にん
商さない工らす人びと ふくしま商・工・人

2026.7.1
Vol.413



P2に掲載

江戸時代から続く「こんにゃくの里」
新たな美味しさへ挑む!

塙町・有限会社ケーフーズ生田目



P3に掲載

～看板業から陶芸販売へ～

お気に入りの一点との出会いをお手伝いします

いわき市好間町・陶芸村うえのはら





県内2地域の商工会からがんばっている会員企業をご紹介します。
みなさんの経営のヒントになるお話もたくさんいただきました。
是非、ご感想を福島県商工会連合会までEメールにてお寄せください。
(fukuren@do-fukushima.or.jp)



県中・県南

塙町商工会

江戸時代から続く「こんにゃくの里」 新たな美味しさへ挑む!



有限会社ケーフーズ生田目

代表取締役 鈴木 克則 氏

住 所 〒963-5402

福島県東白川郡塙町大字
常世北野字新八幡44

連絡先 TEL 0247-43-0429

FAX 0247-43-0449

U R L <https://namatameya.com/>



【事業所紹介】

有限会社ケーフーズ生田目は、1974年の創業以来、江戸時代から続く「こんにゃくの里」として知られる塙町で、伝統的なこんにゃく製造と卸売を行っている会社です。当社のこだわりは、なんといっても昔ながらの製法を守った「手成形(てなり)」によるこんにゃくづくり。大量生産はできませんが、さしみこんにゃくのぷるっとした独特の食感と、心地よいのどごしに仕上がります。おかげさまで、「えごまさしみこんにゃく」や「生芋こんにゃく」など、多くのお客様に繰り返しお買い求めいただけるリピート商品となっております。

現在は時代のニーズに合わせ、自社ECサイトやECモール(楽天市場やAmazon)での販売にも力を入れており、おかげさまで最近では多くのリピーターのお客様に支えられています。また、こんにゃく製造だけでなく、自社農園での菊芋やハーブ、よもぎの栽培・加工など、健康を意識した商品開発にも幅広く取り組んでいます。

【支援内容】

新たな市場を開拓していくためには、生産性と保存性を高める設備投資が不可欠でした。そこで商工会に相談し、レトルト機械を導入するための「ものづくり補助金」の申請サポートをお願いしました。



経営計画の策定から申請手続きにいたるまで、専門的な視点からきめ細かく相談に乗っていただいたおかげで、無事に機械を導入することができました。この設備のおかげで、これまで当社が商品化できていなかった味付けこんにゃく「ぷりり」を、ようやく形にすることができました。さらに、この「ぷりり」は福島県ベストデザイン賞のネーミング部門でシルバーを受賞することもでき、大きな励みとなっております。

手づくりの良さを守りつつ、新しい技術を取り入れることで、全国へ安全でおいしい商品をお届けできる体制が整いました。また、販路拡大のマーケティングや商談会出展支援、地域の製品開発セミナーへの参加など、次の一步を踏み出すための伴走型サポートには、心から感謝しております。



【今後の目標】

直近の大きな目標は、今年満を持して商品化した「牛すじこんにゃく」の販売強化です。福島が誇る極上のA5ランク牛すじ肉と、当社自慢のこんにゃくを組み合わせた自信作であり、こちらも導入したレトルト機械を活用することで商品化が実現しました。

先日のスーパーマーケット・トレードショー(SMTS)でも多くのバイヤー様から嬉しい反響をいただきました。まずはこの商品の魅力を全国の皆さまに知っていただき、当社の看板商品に育てていきたいと考えています。

将来的には、塙町の豊かな自然や地元の食材を活かした「健康的なお土産品」の開発をさらに進め、一年を通じてお客様に笑顔と健康を届けられる企業を目指します。伝統を守りながらも、常に新しい驚きを提案できる存在であり続けたいと思います。





浜通り

好間町商工会

～看板業から陶芸販売へ～
お気に入りの一点との出会いをお手伝いします

陶芸村うえのはら

代表 塙 京子氏

住 所 〒970-1153

福島県いわき市好間町上好間字上野原86

連絡先 TEL 0246-36-8001

営業時間 10:00～16:00

定休日 毎週火・水曜日

【事業所紹介】

平成15年創業、いわき市好間町で陶芸品の展示、販売を行っています。店内では益子焼や笠間焼を中心に、伝統的な技法から現代的なデザインまで、多彩な陶芸作品を展示・販売しております。

私が事業を始めたのは、少し意外なきっかけでした。昭和45年、夫が実家の広告看板業から独立し、いわき市内で開業しました。私は事務を担当しながら、忙しい時には製作現場にも立ち、看板業を支えてまいりました。平成4年には現在地に事務所を移転しましたが、その後、夫が病気で急逝し、看板業は親族に引き継がれました。そのような中、工場2階の空きスペースを活用して何か新しいことに挑戦したいと考えていたところ、陶芸作家とのご縁があり、平成15年に陶芸品の展示販売を始めました。創業にあたっては、商工会から必要書類の作成や記帳などの支援を受け、事業をスタートすることができました。



【経営方針】

創業以来、「器を通じて日々の暮らしを明るく豊かにしたい」という想いで事業を進めてまいりました。ご自宅用はもちろん、大切な方への贈り物や記念品など、気軽にご利用いただけるよう、お手頃な価格で提供出来るよう日々努力をしております。

また、じっくりとお気に入りの一点と出会っていただけるよう、ご来店いただいたお客様には、器のぬくもりを感じながら、ゆっくり作品をご覧いただける空間づくりを心掛けています。さらに、当店のサービスとして、作家や作品への理解を深めていただくため、「陶歴」をお渡ししております。



【支援内容】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、甚大な被害を受けました。作家を迎えたイベントの開催を予定しておりましたが、作品の多くが損壊し、事業再開まで約2カ月を要しました。

休業している間、一度は廃業することも考えましたが、地域の方やお客様からの励ましの声もあり、事業を再開することに決めました。再開にあたり商工会へ相談し、活用できる補助金や、災害時のマル経融資などの支援をしていただきました。迅速な復興関連情報の提供や、親身になって行っていただいた経営相談などのサポートのおかげで、事業を再開することができました。



【今後の目標】

近年ではSNSの普及に伴い、遠方から足を運んでくださるお客様も増えました。今後はこうした情報発信をさらに強化して、より多くの方に陶芸作品の素晴らしさと、器のある豊かな暮らしを提案していきたいと考えております。

また、今年は市内の高校生を迎えて、地域学習の授業受け入れを行う予定です。平坦な道のりばかりではありませんでしたが、今後もこうした活動を通じ、地域との繋がりを深め、皆様の笑顔と共に歩み続けていきたいと思ひます。



臨時総会・第六十六回通常総会

去る三月二十七日、五月二十六日、福島市「コラッセふくしま」において、臨時総会及び第六十六回通常総会を開催した。

臨時総会の議事では、重点事業として、インフレ・物価高騰の環境の中、人口減少等による需要縮小の構造変化、慢性的な人手不足、そして、東日本大震災・原発事故の影響が残る被災中小企業・小規模事業者への経営支援の強化を図るため、商工会の組織力をフルに活用し、事業の継続・持続的発展を念頭に、創業及び事業承継支援、デジタル化推進による業務効率化と生産性の向上支援、さらには地域特産品等の販路開拓支援、地場産業・地域振興への取り組みなど、令和八年度の事業計画及び各会計の予算が決定された。



会長あいさつ

通常総会では、席上、商工貯蓄共済並びに優良商工会等の表彰を行い、続いて来賓の内堀知事、矢吹県議会議長から祝辞をいただいた。



内堀知事あいさつ



矢吹県議会議長あいさつ

その後、議事では、令和七年度の事業報告及び各会計の決算について承認された。

商工会・商工連は、県及び関係機関との連携を図りながら、厳しい経営環境にあつて、様々な経営課題を抱えた中小企業・小規模事業者の声に真摯に耳を傾け、事業者に寄り添った伴走型の経営支援に努め、会員事業者と地域から頼られ、地域発展をけん引する専門集団として、より一層の充実強化を図り「環境に即した経営支援による、ふくしまの商工業振興」を目指し、今年度は以下の事業に重点的に取り組んでいく。

令和八年度 事業計画重点事項

一、中小企業・小規模事業者支援対策の拡充強化と伴走支援

①課題設定型の経営力再構築伴走支援

②小規模企業振興条例制定の推進

③賃金引上げや省力化促進、物価の高騰及び労働力不足等の事業環境変化に対応する支援事業の推進〔継続強化〕

④提案型の経営支援・巡回訪問の推進
⑤経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業の推進

⑥中小企業・小規模事業者の持続的な経営に向けた支援の推進〔継続強化〕

⑦事業承継・創業支援への取り組みの強化〔継続強化〕

⑧働き方改革・生産性向上・税制等に対する支援の強化〔継続強化〕

⑨農商工連携の推進

⑩金融支援の強化

⑪支援機関連携による経営支援

⑫《新規》デジタル技術・生成AI活用による経営支援の推進

⑬経営支援事例の共有とノウハウの蓄積による支援能力の強化

二、商工会の経営支援体制及び組織力の強化

①商工会組織のガバナンス強化〔継続強化〕

②《新規》経営支援体制の検討

③商工会の組織率向上と広域連携による経営支援体制の維持

④商工会等職員の人材確保に向けた取り組み

⑤商工会職員の資質向上対策の推進〔継続強化〕

⑥商工会の生産性向上と働きやすい職場づくりを通じた会員支援の充実〔継続強化〕

三、中小企業・小規模事業者の事業継続力強化と災害に強い商工会づくり

①防災・減災の事前対策に関する事業継続計画等の作成支援〔継続強化〕

②商工会館の防災力強化〔継続強化〕

③リスクに備えた会員サービスの充実強化〔継続強化〕

④被災商工会の相談業務等に係る支援の実施

四、東日本大震災・原子力発電所事故の被災中小企業・小規模事業者に対する商工会組織を挙げた支援の強化

①東日本大震災及び原子力発電所事故に伴う中小企業・小規模事業者の再生・再建と避難地域商工会機能の回復・強化への支援

②被災商工会等の復興ビジョンに基づく事業の実施

③原子力損害賠償の完全実施への支援とALPS処理水への対応

五、中小企業・小規模事業者の販路開拓支援と地域振興の取り組み

- ① 福島県産品のPR強化と販路開拓による付加価値向上支援
- ② 地場産業創出による雇用創出・拡大と地域特産品等の販路開拓支援
- ③ 地域振興への取り組み



清水議長 (臨時総会)



横山議長 (第66回通常総会)

令和七年度共済事業表彰 (商工貯蓄共済表彰)

○目標達成商工会

保原町、あだたら、岩瀬、大信、檜枝岐村、西会津町、三島町、富岡町、葛尾村、好間町

○純増口数基準

保原町

○新規加入人口割合基準

葛尾村



表彰 (葛尾村)

(全国商工会会議員福祉共済表彰)

○純増口数基準

三島町



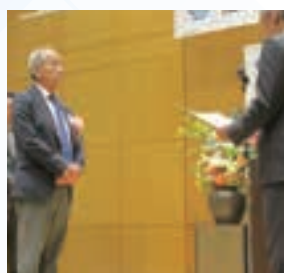
表彰 (三島町)

令和七年度実施事業 優良商工会等表彰

(企業支援等に対する積極的な支援・成果)

○経営革新計画承認件数

長沼、岩瀬、三春町、船引町、只見町



表彰 (三春町)



表彰 (岩瀬)

○持続化補助金・福島小規模企業者等いきいき支援事業の合計

松川町、長沼、岩瀬、石川町、矢吹町、西会津町、猪苗代町

(記帳支援事業)

○新規自計利用者推進優良商工会

滝根町、矢吹町、只見町

○新規記帳機械化処理受託推進優良商工会

矢祭町、北塩原村、鹿島



表彰 (滝根町)



表彰 (矢祭町)

(優良職員)

鈴木翔太 (二級FP技能士)

森美里 (二級FP技能士)

商工会職員等報奨制度表彰

○個人部門

チャレンジ大賞

「多角的かつ継続的な伴走支援と経営支援事例発表全国大会最優秀賞受賞」
石川町商工会 青柳孝 経営指導員

チャレンジ準賞

「カードゲーム(ジギョケイ)を活用した事業継続力強化支援の取組」
南会津町商工会 鈴木崇史 経営指導員



表彰 (個人部門 チャレンジ大賞)



表彰 (個人部門 チャレンジ準賞)

○団体部門

チャレンジ大賞

「西会津町事業承継協議会による事業承継支援の取組」
西会津町商工会

チャレンジ準賞

「ECサイトによる販路開拓支援事業の取組」
福島県商工会連合会



表彰 (団体部門 チャレンジ大賞)



表彰 (団体部門 チャレンジ準賞)

青年部 だより

県青連第59回通常総会・東北・北海道ブロック 令和8年度通常総会開催

福島県商工会青年部連合会の第59回通常総会が、5月11日（月）に、いわき市「グランパークホテル パネックスいわき」にて開催されました。

玉川陣会長挨拶の後、福島県商工会青年部員顕彰として、人（ヒューマン）づくり部門、ネットワークづくり部門、まち（地域）づくり部門、感謝状、部員増強運動の顕彰が行われました。

その後、月本寛氏（柳津町商工会青年部）が議長となって議案審議に入り、提出された全議案が可決承認されました。

翌5月12日（火）には、東北六県・北海道商工会青年部連合会連絡協議会の令和8年度通常総会が、いわき市「いわき産業創造館」にて開催されました。

福島県が幹事県ということで、玉川陣会長による青年部宣言、吉田博紀副会長による司会進行のもと、東北・北海道各道県の代表者が一堂に会し、各議案について審議が行われ、いずれも原案どおり承認されました。



【令和8年度青年部顕彰受賞者一覧】

人づくり部門	氏家 利康（猪苗代町）
ネットワークづくり部門	林 淳（飯野町）
まちづくり部門	檜葉町商工会青年部
感謝状	樽井 良（あだたら）
	星 健吾（逢瀬町）
	金沢 和也（棚倉町）
	小池 一成（柳津町）
	金村 正希（広野町）
	橋本 正浩（三和町）
部員増強運動	1 位 会津坂下町商工会青年部
	2 位 保原町商工会青年部
	2 位 玉川村商工会青年部
	2 位 富岡町商工会青年部
	2 位 大熊町商工会青年部



女性部 だより

商工会女性部トップセミナー・ 第59回通常総会開催される！

主張発表福島県大会 最優秀賞（県知事賞）に岩本 美智子さん（双葉町商工会女性部）



主張発表大会

第59回福島県商工会女性部連合会通常総会は、令和8年4月23日・24日 石川町 母畑温泉「八幡屋」において開催され、内堀県知事、渡邊県連会長、玉川県青連会長をご来賓に迎えました。県内88商工会から220名の女性部長・部員が参加しました。通常総会では、齋藤文氏（飯野町）が議長となり、第1号議案から第3号議案までが原案通り可決承認されました。

また、総会の席上において、昨年度新規部員の加入数が優れていた3商工会女性部に対し表彰及び報奨金として目録の授与を行いました。

通常総会に合わせて実施した「女性部トップセミナー」では、県内6ブロックの代表者による商工会女性部主張発表福島県大会が行われ、『女性部活動と地域振興・まちづくり』～「人口ゼロからの再スタート・ふんばる女性部」ブロッコリーと一緒に双葉町を発信～というテーマで発表した、相双地区代表・双葉町商工会女性部 部員 岩本美智子さんが最優秀賞（県知事賞）に選ばれ、7月13日に青森県「ホテル青森」で行われる東北・北海道ブロック大会への出場を決めました。

翌24日には、音楽療法でフレイル予防～歌って楽しく認知機能アップ～と題し、一般社団法人 日本音楽療法学会 認定音楽療法師 近藤美智子氏による基調講演が行われました。

「音楽」や「音」の素晴らしさについて実際に楽器を演奏したり、歌を歌ったりすることで実感でき、笑いあり涙ありの思い出に残る時間となりました。基調講演の終了後には熱心に質問をしてさらに交流を深めることができました。



基調講演

《令和7年度新規部員加入実績》

第1位	あいづ商工会女性部	4名
	富岡町商工会女性部	4名
	大熊町商工会女性部	4名

福島 ふくらみ PROJECT

老舗豆腐店の挑戦

125年の伝統と
「ふくらむ」未来へのタクラミ



1. 事業概要

明治34年の創業から125年、福島県棚倉町で伝統を守り続ける大榎食品。5代目店主・大榎広さんが手がける「木綿とうふ」は、創業時から変わらぬ製法を貫く看板商品です。同店はこの伝統を柱としつつ、塩をかけると甘みが際立つ「青豆よせ豆腐」が全国豆腐品評会東北大会で最優秀賞を受賞するなど、高い技術力を背景とした商品づくりに着手してきました。現在は豆腐の枠を超え、自社の豆乳を使用したカレーやアイスといった新商品の開発にも果敢に挑戦しています。販売先は主に自社店舗を中心に県内の道の駅やスーパーなど、長年地域の人々の食卓を支えています。



2. 対話を通じて得られた気づき

【大榎さんらしさ、棚倉らしさ、豆腐らしさとは…】

前職がアパレル業界だった大榎さんは、「自社を格好よく見せたい」という思いを抱いていました。しかし、対話の中で再確認されたのは、100年以上続く製造現場や大榎さんの飾らない人柄、そして棚倉の風土といった「手触り感のある情報」こそが、消費者が求めている「らしさ」であるという点でした。

【量から質への転換】

EC販売やキッチンカーといった新たな取組への意欲はあるものの、最大の壁は「生産体制の限界」でした。現在の設備ではこれ以上の増産が難しく、単純な販路拡大(量)を目指すのではなく、限られた生産量の中でいかに付加価値(質)を高め、適正価格で届けるかという戦略の転換が求められていました。

【等身大のブランディング】

100年を超える圧倒的な歴史というストーリーを持ちながら、既存のパッケージやPRツールではその魅力が十分に可視化できていない点が課題でした。モノを作る技術だけでなく、デザインを経営戦略として活用し、選ばれるための「顔」を整える必要性が明確になりました。

3. 未来を切り拓くアイデア出し

(クリエイティブ人材×支援機関との共創)

東北地域で実践的に活動しているデザイナー集団「東北デ、」

「福島ふくらみプロジェクト」は、ひとつひとつの事業者が持続的に成長(ふくらんで)していくことで、福島の未来への期待を膨らませていく長期伴走型の支援プロジェクトです。その一環として、2026年1月に開催した「福島ふくらみツアー～福島で“誰かの役にたつ”旅～」では、ワイナリーや豆腐屋、お肉屋など地域の事業者を訪ね、現場の課題を共有し、参加者全員で解決のヒントを探るワークショップのような取り組みです。今回は、棚倉町の老舗「大榎(おおすぎ)食品」を舞台にしたツアーをご紹介します。創業125年を誇る伝統と、新たな販路開拓の間で揺れる事業者のリアルな課題をお聞きし、「東北デ、」のメンバーや参加者から解決に向けた創造的なアイデアが提案されました。

(東北各地のデザイナーが地域課題をデザインで解決するために結集したユニット)らによるツアーを開催しました。ツアーでは、生産量の限界を逆手に取った「質の向上」と「体験の提供」を軸に、以下のような斬新なアイデアが次々と飛び出しました。

【豆腐を広げる】

外国人従業員をブランドの象徴(看板スタッフ)とし、単に豆腐を売る場所から「あのの人に会いに行く場所」へと店舗を再定義。地域内外の人々が交わるハブとしての新業態を目指します。

【キッチンカー事業の再定義】

売上を追う「ゴール」ではなく、屋台風のライブ感を演出して豆腐文化を伝承する「ファンとの接点」としてスモールスタート。大榎さんのトーク力という武器を活かし、消費者のリアルな声を収集する場にします。

【豆腐屋での民泊でファン作り】

増産が難しいからこそ、工場に泊まって朝3時に起きて豆腐作りを手伝い、出来たての豆腐と店主との交流を体験するプログラム。「買えない体験」という付加価値を提供し、関係人口を創出する拠点づくりとファン化を狙います。

【地域連携のハブ】

自社単体でのブランディングに固執せず、地域の他事業者と組み合わせにより、地域コミュニティという大きな循環の中で、豆腐が自然に知られていく流れを作ります。



編集後記

【店主の「人柄」が、地域の未来をふくらませる】

店主の大榎氏は、かつてアパレル業界にいた経験から「格好良く見せよう」と肩に力が入っていた時期もあったそうです。しかし、今回のツアーで客観的な視点に触れ、「豆腐屋らしい泥臭さや、ありのままの自分でいい」と、自身の歩んできた方向性を再確認されました。

事業者が持つ「人柄」という最大の資産が、飾らずに表現されたとき、そこに伴走者やファンが集まり、新しいタクラミが動き出します。ひとりの熱意が周囲を巻き込み、地域全体がふくらんでいく——。そんな「ふくらみ」の連鎖が、これからの福島の商売を面白くしていくのだと感じさせる旅となりました。



き出します。ひとりの熱意が周囲を巻き込み、地域全体がふくらんでいく——。そんな「ふくらみ」の連鎖が、これからの福島の商売を面白くしていくのだと感じさせる旅となりました。

他のツアーの様子もnoteで公開中!

こちらから、福島各地で展開されている「ふくらみツアー」のレポートをご覧ください。



共済推進アドバイザー あい た あき ひこ 會田 明彦



月10日、商工会の共済推進に関わる 支援・指導・研修等を担当します

継続的に会員様に役立つ選択肢の提供を県連・商工会職員と共に
実施し、事業継続へ向けたリスクマネジメントの充実を図ります

商工会の共済推進活動への支援

- ①職員向け勉強会
- ②職員同行(活動・契約補助)
- ③成功商工会の事例研究

共済推進活動推進へ向けた環境整備

- ①役員会等での説明・協力依頼
- ②共済推進計画フォロー
(原因分析・課題解決策)

ジブラルタ生命との連携・活用への取次

- ①保険相談会の企画・運営支援
- ②LC勧奨制度の活用・推進(ジブラルタ生命との協議・依頼・打合せ)
- ③セミナー(年金・介護・相続・事業継承・資産形成・ライフプランニング)

**重点商工会、LC勧奨制度導入商工会を中心に
今年度より支援をスタートします**

共済に関するご相談をお待ちしております!

INPIT 知財総合支援窓口

特 許

意 匠

商 標

著作権

知財のこと、まずはご相談ください

秘密厳守

相談無料

専門家活用

訪問支援

TEL 024-963-0242

一般社団法人 福島県発明協会